# 平成26年度授業シラバスの詳細内容

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 科目名(英) | 地域経済論(Regional Economics) | | | 授業コード | C111401 |
| 担当教員名 | 市川　芳郎 | | | 科目ナンバリングコード | L20107 |
| 配当学年 | カリキュラムにより異なります。 | 開講期 | 前期 | | |
| 必修・選択区分 | 選択 | 単位数 | 2 | | |
| 履修上の注意または履修条件 | 特にありませんが、出席は毎回とります。 | | | | |
| 受講心得 | 地域経済学は、何よりも実践的な政策科学です。受講生は日常的に新聞報道等注意し、地域経済事情に対する具体的な認識を深めてもらいたいと思います。 | | | | |
| 教科書 | 特定の教科書は使用しません。 | | | | |
| 参考文献及び指定図書 | (参考)・山田浩之・徳岡一幸/編 『地域経済学入門　新版』 有斐閣コンパクト<br>・ 2013年版 『九州経済白書』　九州経済調査協会 | | | | |
| 関連科目 | 日本経済論(2年次)、経済政策論(2年次) 、国際経済政策(2年次) | | | | |

| | |
|---|---|
| 授業の目的 | 地域経済学は、1930年代にイギリスで登場した「地域経済」を対象とする学問分野です。地域の経済的構造は国民経済的な産業構造や産業配置を反映しています。また、地域の地理的特徴、国際経済との関連性から様々な地域問題が発生します。本講義では、わが国における地域問題・地域政策について学びます。 |
| 授業の概要 | 経済のグローバル化のなかで、大きく変貌する地域経済の実態を具体的に示しながら、その最新局面を把握する地域経済学の到達点をわかりやすく説明します。 |

| ○授業計画 | |
|---|---|
| 学修内容 | 学修課題(予習・復習) |
| **第 1 週 ： 第1回　授業の概要**<br>最初に授業用のレジュメを配布し、授業オリエンテーションを行います。最近の「地域経済」についての話題をとりあげ、地域経済論での分析の視点について概略を説明します。 | |
| **第 2 週 ： 第2回　地域経済論の目的と方法**<br>地域経済論の目的と方法、地域の概念、グローバル化と地域経済について説明します。|授業の基本概念である「地域」の考え方や地域格差について説明します。 | 配布プリント |
| **第 3 週 ： 第3回　戦後復興と国土政策の誕生**<br>戦後復興政策の最初の取り組みは、国内の未利用資源の開発を進めるという地域開発政策でした。「国土総合開発法」に基づく「特定地域総合開発計画」について説明します。 | 配布プリント |
| **第 4 週 ： 第4回　高度経済成長政策**<br>戦後日本の復興の歩みを紹介し、高度成長政策の裏付けとなった「国民所得倍増計画」(1960年)について説明します。さらに、具体的な政策構想である「太平洋ベルト地帯構想」と、その産業政策と立地政策について説明します。 | 配布プリント |
| **第 5 週 ： 第5回　高度成長期の地域問題**<br>高度成長政策の実行に伴って、わが国の所得格差や過密・過疎問題といった地域問題が顕在化してきます。九州の視点から、いわゆる地域問題の具体的現象について説明します。 | 配布プリント |
| **第 6 週 ： 第6回　全国総合開発計画と新産業都市**<br>地域問題への対策として、わが国では大都市圏の過密現象の緩和策として、1962年以降地方開発に重点を置いた全国総合開発計画が展開されます。最初の全総が打ち出した拠点開発構想の「新産業都市計画」について、“優等生モデル”といわれた大分の実例を紹介します。 | 配布プリント |
| **第 7 週 ： 第7回　新全国総合開発計画と大規模プロジェクト構想**<br>1全総の限界を踏まえ、2全総では開発可能性を日本列島全域に広げるために“大規模プロジェクト構想”が打ち出されます。新幹線・高速道路を中心とした高速交通体系整備の計画について説明します。 | 配布プリント |
| **第 8 週 ： 第8回　第3次全国総合開発計画と定住圏構想**<br>3全総は従来の工業開発優先政策の反省から、生活圏整備を主題に据えた“定住圏構想”を打ち出します。こうした政策思想の変化と同時に、技術立国を目指した新たな地域開発計画である「テクノポリス構想」について説明します。 | 配布プリント |

| | |
|---|---|
| **第 9 週 ： 第9回　サービス経済化と東京一極集中問題**<br>80年代以降のサービス経済化の進展は、いわゆる“中枢管理機能”（広範囲に支配力・影響力を及ぼす政治的、経済的な意思決定に関わる機能）とネットワークの強化を通じて一極集中問題を浮かび上がらせました。一極集中の要因を説明します。 | **配布プリント** |
| **第10週 ： 第10回　　第4次全国総合開発計画とリゾート開発**<br>4全総は多極分散型の国土形成を目指し、“交流ネットワーク構想”を打ち出しました。東京一極集中を改めるには、第3次産業事務所の地方分散が必要との考えからです。新しい政策思想について説明します。 | **配布プリント** |
| **第11週 ： 第11回　グリーンツーリズムと地産地消**<br>ヨーロッパでは自然回帰志向から、1980年代以降、グリーンツーリズムが人気を集めています。わが国でもリゾート開発への反省から、90年代に入って中山間地対策としてそれに取り組む事例が増加してきました。わが国の展開事例について説明します。 | **配布プリント** |
| **第12週 ： 第12回　21世紀の国土のグランドデザイン**<br>1998年には、5全総として位置付けられるべき「21世紀の国土のグランドデザイン」が発表されました。そこでは、国土構造転換の必要性から4つの国土軸が、また地域レベルでは地域連携軸による地域間の交流密度の向上が示されています。グランドデザインの背景と内容について説明します。 | **配布プリント** |
| **第13週 ： 第13回　九州経済の最近の展開(1)**<br>九州経済の最近の動向特に世界同時不況が九州経済に及ぼした影響について説明します。 | **配布プリント** |
| **第14週 ： 第14回　九州経済の最近の展開（2）**<br>大分県経済の現状と課題について説明します。 | **配布プリント** |
| **第15週 ： 第15回アジア諸国の勃興と九州経済**<br>中国、インド、ASEAN諸国の経済発展と九州経済の将来は密接に関連しています。その期待と課題を説明します。 | **配布プリント** |
| **第16週 ： 期末試験**<br>試験形式は、論述形式です。自筆ノート、配布プリント・資料のみ持ち込み可能です。電子式辞書の持ち込みは不可です。 | **配布プリント**<br>自筆ノート、学生証 |

| | | |
|---|---|---|
| **授業の運営方法** | （1）授業の形式 | 「講義形式」 |
| | （2）複数担当の場合の方式 | |
| | （3）アクティブ・ラーニング | |
| **備考** | | |

| **○単位を修得するために達成すべき到達目標** | |
|---|---|
| **【関心・意欲・態度】** | 1.九州経済、大分をはじめ各自の出身地のできごとに関心があり、資料を収集した。 |
| **【知識・理解】** | 2. 戦後日本の国土開発政策、地域振興政策の流れを理解している。 |
| **【技能・表現・コミュニケーション】** | |
| **【思考・判断・創造】** | 3. グローバル化が進行する中で大きく変貌している現代日本の地域経済構造と地域問題の現局面を理解している。 |

| ○成績評価基準（合計100点） | | | 合計欄 | 100点 |
|---|---|---|---|---|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点 | **期末試験・中間確認等（テスト）** | **レポート・作品等（提出物）** | **発表・その他（無形成果）** | |
| **【関心・意欲・態度】**<br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。 | | | **10点** | |
| **【知識・理解】**<br>※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。 | **40点** | **30点** | | |
| **【技能・表現・コミュニケーション】**<br>※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。 | | | | |
| **【思考・判断・創造】**<br>※「考え抜く力」を含む。 | **20点** | | | |

**（「人間力」について）**

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 | |
|---|---|
| **成績評価方法** | **評価の実施方法と達成水準の目安** |
| **レポート・作品等（提出物）** | 課題を設定してレポートを提出してもらいます。授業の中で指示します。<br>授業確認テストをします。意欲的に集中して授業を聴いていたかを確認する問題を出します。 |
| **発表・その他（無形成果）** | 授業の中で質問する場合があります。適切な解答をした人には、記録して加点します。 |